

言心先生の中国便り

伝統武術神話の
邪魔者

四月二十九日、中国の西洋格闘の狂人を自称している38歳の徐暁冬氏と、中国の太極拳の最高位の大師、魏雷氏との格闘大会が中国の成都市で開かれた。結果は、ほぼすべての人の予想に反して、たった15秒で太極拳の大師が徐氏にKOされた。このニュースは、中国全土に大きな反響を呼んだ。そして、もっと大きな反響は徐氏が中国武術界の内情を暴露したことであった。

近年、中国のテレビ番組の中で非常に人気のある内容の一つに、中国の武術選手と日本拳王との格闘の生中継がある。ほぼすべての回で、日本の選手が殴られてKOされる。その時、現場の観衆は中国の国旗を掲げて、「中国

万歳」、「日本鬼子殺す」等のスローガンを叫ぶ。その画像を見るたび、この日本拳王の名前は全く聞いたことはない。疑問に思っていたが、今回の徐氏の暴露により、その謎が解けた。つまり、その日本拳王は偽物で、彼らの本当の身分は在中国の日本人留学生である。テレビ媒体は番組を作るために大金を払い、偽の日本拳王と中国の武術選手を格闘させていたのである。

徐氏は、中国の各業界の武術家に挑戦状を配り、誰とでも、いつでもどこでも格闘することを宣言した。

それに対して、警察官が徐氏の道場に警告に来た。彼らは徐氏と太極拳の雷大師の格闘、そして、他の武術家の挑戦行為は治安法に違反する行為であると認定し、徐氏と外部との連絡方法を遮断して謹慎させると宣告した。

一部の中国の媒体は、中国の武術界が徐氏の行為を恐れて、やむをえず警察の力を

借りて沈静化を図ったのではないかと分析した。

徐氏の一連の行為は、三種類の人々にダメージを与えた。

まず、中国の伝統武術を食い物として利用している少林寺拳法、太極拳、気功等の武術家たちである。

二番目は、中国の武術家が日本拳王と格闘する番組を作るテレビ媒体である。

三番目は、その番組を楽しむにしている愛国者たちである。徐氏の暴露で、彼らの愛国夢の一部分は消えてしまった。

